

社会学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
社会学概論	社会学の視点と方法	2	青木 聡子	3	火曜3限
社会学概論	現代社会の諸相	2	小松 丈晃	4	火曜3限
社会学基礎演習	エスノグラフィー講読入門	2	高橋 知花	3	月曜4限
社会学基礎演習	リスクとアイデンティティ	2	小松 丈晃	3	火曜4限
社会学基礎演習	社会学の基礎概念	2	菅原 謙	4	火曜2限
社会学基礎演習	質的社会調査入門	2	田代 志門	4	木曜2限
社会学各論	環境社会学の理論と実践	2	青木 聡子	5	火曜5限
社会学各論	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	5	水曜3限
社会学各論	アメリカ社会学説史	2	池田 直樹	5	集中講義
社会学各論	質的研究概論	2	徳川 直人	6	月曜3限
社会学各論	日本の思想遺産・主婦論 争を読む	2	妙木 忍	6	水曜2限
社会学各論	死と死にゆくことの社会学	2	田代 志門	6	水曜4限
社会学演習	病い・自己・時間	2	田代 志門	5	水曜2限
社会学演習	社会運動研究の理論と実践	2	青木 聡子	6	火曜5限
社会学演習	近代の構造転換	2	小松 丈晃	6	水曜5限
社会学実習	社会調査実習	2	田代 志門	5	金曜3限、 金曜4限

社会学

社会学実習	社会調査実習Ⅱ	2	田代 志門	6	金曜3限、 金曜4限
-------	---------	---	-------	---	---------------

科目名：社会学概論

曜日・講時：火曜3限

Semester：3 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB32302, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：社会学の視点と方法

2・授業の目的と概要：こんにち私たちは高度に複雑化した社会に生きており、社会の全体像を見渡すことが非常に困難になっている。こうした状況下では、個人の行為が思わぬところに影響を与えることもありうる。「社会学」では、自分たちが生きている社会の全体像を理解しようとする試みが、先人たちの手によって取り組まれてきた。この授業の目的は、そのような先人の知恵を借りて、私たち「自身の身近な現実を全体の社会的現実とのつながりのなかで理解する資質」＝「社会学的想像力」を養うことである。そのために、この授業では、グループワークをおこない、様々な具体的なトピックについて、自身で問いを立て、調べ、考察する力を身につける。

3. 学習の到達目標：社会学の視点や方法を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODakション——授業の進め方について
- 2 社会学とは何か
- 3 日常生活を問う社会学(1)——自分と他者の関係を考える
- 4 日常生活を問う社会学(2)——家族を考える
- 5 日常生活を問う社会学(3)——福祉や教育を考える
- 6 日常生活を問う社会学(4)——地域社会を考える
- 7 日常生活を問う社会学(5)——災害と復興を考える
- 8 中間のまとめ
- 9 社会問題の社会学(1)——環境問題を考える①
- 10 社会問題の社会学(2)——環境問題を考える②
- 11 社会問題の社会学(3)——社会運動を考える①
- 12 社会問題の社会学(4)——社会運動を考える②
- 13 社会問題の社会学(5)——ジェンダーを考える
- 14 社会学の実践
- 15 最終のまとめ

5. 成績評価方法：授業への参加と課題（毎回のコメントペーパー）50%、期末試験 50%

6. 教科書および参考書：毎回の授業の際に配布します。

7. 授業時間外学習：授業前に予習用資料を配布するので、それを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

(1)履修は文学部の学生に限定します。他学部の学生で、やむを得ない事情や特定のテーマに興味があるなどの理由でこの授業の履修を希望する場合には、必ず初回までに青木に問い合わせをし、許可をもらうようにしてください。

(2)初回は必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合には、事前に青木宛にメールで連絡をください。

連絡先：soko.aoki.e7@tohoku.ac.jp

科目名：社会学概論

曜日・講時：火曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB42303, 科目ナンバリング：LHM-SOC201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代社会の諸相

2・授業の目的と概要：U.ベックによれば、社会学には、(1)理論研究、(2)経験的研究とそれによる理論の吟味、(3)時代診断、という三つの課題があるとされる。社会学者たちは、みずからの生きる近代社会を、どのような社会として時代診断し、理論化し、検証してきたのだろうか。この授業では、社会学的な現代社会論をいくつか取り上げながら、現代社会の構造と変動を考察し、同時に、そこで生きる個々人のライフコースのあり方について、考察してみたい。授業の前半では、主に、近代化論とその問題について考える。授業の後半では、現代社会のさまざまな特徴に焦点を当てた現代社会論を取り上げ、その議論が、私たちの生活にとって持つ意味について検討する。

3. 学習の到達目標：・現代社会の構造やその変化について理解できるようになる
・それぞれの現代社会論の特徴と問題点について理解できるようになる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 社会の「機能分化」論の系譜 (1)
3. 社会の「機能分化」論の系譜 (2)
4. 社会の「機能分化」論の系譜 (3)
5. 近代化論の限界と世界システム論 (1)
6. 近代化論の限界と世界システム論 (2)
7. 再帰的近代化論・リスク社会論 (1)
8. 再帰的近代化論・リスク社会論 (2)
9. 再帰的近代化論・リスク社会論 (3)
10. グローバリゼーション (1)
11. グローバリゼーション (2)
12. マクドナルド化する現代
13. 消費社会のゆくえ
14. 監視のテクノロジーと社会
15. 社会的排除と包摂

5. 成績評価方法：講義終了後のミニットペーパーへの記入内容 60%+中間レポート・期末試験 40%

6. 教科書および参考書：教科書はない。参考書として、(1) A. ギデンズ&P. サットン (宮島喬他訳)『社会学 (第9版)』上・下、勁草書房、2025年 (原書は2021年)、(2) 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019、『【新版】社会学』有斐閣。

7. 授業時間外学習：授業において、適宜、次回までの自宅で行うべき学習課題を出す。
授業時間外の資料収集に基づく中間レポートも提出してもらう予定である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者多数の場合 (教室の収容人数を超える場合) には、受講制限を行う。その場合、他学部の受講生は受講不可とする。
資料の配付等は、Google Classroom を通じて行う。
オンライン授業は行わず、すべて「対面」で実施する。

科目名：社会学基礎演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：高橋 知花

コード：LB31405, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：エスノグラフィー講読入門

2・授業の目的と概要：この授業では、エスノグラフィーの講読を通じ、エスノグラフィーの手法とはどのようなものか、質的
社会調査で得られたデータがどのように分析、考察されるかを学びます。

3. 学習の到達目標：地域社会のさまざまな営み（都市のローカル・コミュニティ、スポーツツーリズム、祭礼）に関するエス
ノグラフィーを読み解き、エスノグラフィーにおける調査と理論との関係性を理解する力を身につける。また、過不足のないレ
ジュメを作成できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. エスノグラフィーとは (1)
3. エスノグラフィーとは (2)
4. 都市のローカル・コミュニティ①
5. 都市のローカル・コミュニティ②
6. 都市のローカル・コミュニティ③
7. 都市のローカル・コミュニティ④
8. スポーツツーリズムと地域社会①
9. スポーツツーリズムと地域社会②
10. スポーツツーリズムと地域社会③
11. 祭礼と地域社会①
12. 祭礼と地域社会②
13. 祭礼と地域社会③
14. 祭礼と地域社会④
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業への参加（報告、ディスカッション）40%、課題レポート 60%

6. 教科書および参考書：授業内で案内する

7. 授業時間外学習：各回レジュメ担当者を決め、レジュメの作成と報告をしてもらいます。各回担当者だけではなく、参加者
全員が教科書の該当箇所を事前に読み、授業での議論に参加できるよう準備しておく必要があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者は必ず初回に出席してください。

科目名：社会学基礎演習

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB32404, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：リスクとアイデンティティ

2・授業の目的と概要：この基礎演習は、【社会学の基礎文献を読みこなす】力を養うことを目的としている。

私たちは、日常生活のなかで、どのようなリスクとかわかり、それとどのように向き合っているだろうか。ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックのリスク社会論は、たんに、科学技術に関連したリスクについてのみ議論しているわけではなく、アイデンティティや文化、ジェンダー、排除といった社会学にとって重要な諸問題についても触れるものであった。リスクとの日常的な関わり方は、私たちのアイデンティティと深く関わり、また、「他者」に関する表象にも大きな影響をもたらす（例、「他者」の排除）。この基礎演習では、リスクを概説的に論じている英語のテキストを用いて、とくに、リスクの概念と自己アイデンティティ、あるいは「他者性」との関係について詳細に吟味してみたい。

3. 学習の到達目標：社会学の基本的な外国語文献を読む力を習得する
現代社会の重要な問題を論じるさいの基礎視角を身につける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) イントロダクション
- (2) リスクの社会学についての講義—基礎概念を学ぶ— (1)
- (3) リスクの社会学についての講義—基礎概念を学ぶ— (2)
- (4) リスクと文化 (1)
- (5) リスクと文化 (2)
- (6) リスクと文化 (3)
- (7) リスクとアイデンティティ (1)
- (8) リスクとアイデンティティ (2)
- (9) リスクとアイデンティティ (3)
- (10) リスクとアイデンティティ (4)
- (11) リスクと他者性 (1)
- (12) リスクと他者性 (2)
- (13) リスクとリスクの否認 (1)
- (14) リスクとリスクの否認 (2)
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：授業中の報告内容 70%とレポート 30%で評価する

6. 教科書および参考書：Rupton, D., 2023, Risk(3rd Edition),Routledge.

7. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回、対象となるテキスト（英語）を読んでおき、授業時間までに、報告レジュメを作成し、論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会学基礎演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：菅原 謙

コード：LB42205, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：社会学の基礎概念

2・授業の目的と概要：この授業には、ふたつの目的があります。ひとつは、社会学の基礎概念に習熟することです。もうひとつは、テキストを文法的に正しく、かつ論理的・批判的・分析的に読解することを通じて、外国語文献の精読を厭わぬ態度を身につけることです。上記の目的を踏まえ、日本語による4回の導入的講義に引き続き、指定されたテキストを輪読します。

3. 学習の到達目標：(1)社会学の基礎概念について詳細な説明ができること、(2)テキストの精読によって可能となる精確な訳文を作成できること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：講義（概念／言明／理論）
- 第2回：講義（記述と説明／根拠と帰結）
- 第3回：講義（社会学主義）
- 第4回：講義（社会制度）
- 第5回～第15回：講読

5. 成績評価方法：訳文の出来栄え（70%）および小テスト（30%）

6. 教科書および参考書：Herranen, Olli (2022) *The Invisible Order: A Relational Approach to Social Institutions*, Palgrave Macmillan.

7. 授業時間外学習：指定された範囲までテキストを読んでくること。報告分担者は訳文を作成すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会学基礎演習

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB44204, 科目ナンバリング：LHM-SOC202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：質的社会調査入門

2・授業の目的と概要：様々な質的研究法の概要を理解するとともに、それらの方法論に基づいて執筆された論文の精読を行うことを通じて質的社会調査の実際を学ぶ。なお、受講生には授業で学んだことを活かして文献検索等を行い、先行研究の検討を通じて自らの研究テーマを掘り下げることが期待される。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 質的研究法の特徴を理解できるようになる
(2) 質的社会調査に基づく研究成果を批判的に読むことができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 演習の進め方について
- 2 質的研究とは何か
- 3 質的研究におけるデータ収集
- 4 フィールドワーク (1)
- 5 フィールドワーク (2)
- 6 参与観察 (1)
- 7 参与観察 (2)
- 8 生活史 (1)
- 9 生活史 (2)
- 10 中間まとめ
- 11 質的研究の実例を読む (1)
- 12 質的研究の実例を読む (2)
- 13 質的研究の実例を読む (3)
- 14 質的研究の実例を読む (4)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

6. 教科書および参考書：岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』(有斐閣、2016年)

7. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学各論

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB52501, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：環境社会学の理論と実践

2・授業の目的と概要：この授業は、(1)人間社会は自然環境をどのように変化させたのか、(2)自然環境の変化によって人間社会にはどのような影響が生じたのか、(3)自然環境の変化とそれによる人間社会への影響に対して人々はどのような取り組みをしてきたのかについて、環境社会学の観点や分析手法を理解することを目的とする。

3. 学習の到達目標：環境問題による被害の発生・深刻化のメカニズムと、環境問題に向き合う人びとの取り組みを、社会的な観点から説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

テーマごとに代表的な事例を取り上げます。教員による講義に加えて学生によるディスカッションの時間も設けながら授業を進めます。

- 1 インTRODクシヨン——「環境」を社会的にとらえる視点
- 2 環境問題の構造をとらえる(1)——被害・加害構造論①
- 3 環境問題の構造をとらえる(2)——被害・加害構造論②
- 4 環境問題の構造をとらえる(3)——受益圏・受苦圏論①
- 5 環境問題の構造をとらえる(4)——受益圏・受苦圏論②
- 6 環境問題の構造をとらえる(5)——社会的ジレンマ論①
- 7 環境問題の構造をとらえる(6)——社会的ジレンマ論②
- 8 中間のまとめ
- 9 環境問題と向き合う人びとをとらえる(1)——社会運動論の理論的視座
- 10 環境問題と向き合う人びとをとらえる(2)——環境運動の事例に学ぶ①
- 11 環境問題と向き合う人びとをとらえる(3)——環境運動の事例に学ぶ②
- 12 環境問題と向き合う人びとをとらえる(4)——環境運動の事例に学ぶ③
- 13 環境社会学の諸研究(1)——順応的ガバナンス論
- 14 環境社会学の諸研究(2)——災害・震災復興への視座
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、期末レポート 60%

6. 教科書および参考書：テキスト：時間ごとに文献を指定します。

参考書：授業の際に適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

初回は必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合には、事前に青木までご連絡ください。

連絡先：soko.aoki.e7@tohoku.ac.jp

科目名：社会学各論

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB53303, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：リスクと無知の社会学

2・授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有り様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。最後に、事故や災害の「想定外」の問題を取り上げ、近年の無知学(agnotology)に関する研究動向も参照しながら、「無知の社会学」を展開する可能性について考える。

3. 学習の到達目標：現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会論再訪—U. ベックの社会理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論とその影響
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスク社会と信頼 (1)
8. リスク社会と信頼 (2)
9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
10. リスクガバナンスの考え方(1)
11. リスクガバナンスの考え方(2)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 60%+レポート提出 40%で評価

6. 教科書および参考書：教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にすべき文献を適宜指示します。

7. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定です。
授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもら予定です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会学各論

曜日・講時：月曜3限

semester：6 単位数：2

担当教員：徳川 直人

コード：LB61308, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：質的研究概論

2・授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について学ぶ。参加者は教材を読み、資料収集や日常観察などの実践を試みることで、理解を深める。

- 3. 学習の到達目標：**1) 質的研究法の基礎的技法、考え方、意義と限界が理解できるようになる。
2) フィールドワークやインタビューを初歩的な形で実践できる基礎素養が身につく。
3) 調査のモラルと倫理、責任について考慮できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。

1. 質的分析法入門
2. 感受概念
3. 方法としてのフィールドノート
4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
5. 聞き書き
6. インタビュー
7. 自然主義的観察
8. 参与観察
9. グラウンデッドな接近法
10. エスノメソドロロジー
11. エスノグラフィー
12. 事例分析とモノグラフ
13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
14. アクション・リサーチ
15. 調査倫理

5. 成績評価方法： 平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。

6. 教科書および参考書：エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。
また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

7. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会学各論

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：妙木 忍

コード：LB63210, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む

2・授業の目的と概要：本授業では、フェミニズムの歴史を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライスコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞（2019年）を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。

3. 学習の到達目標：フェミニズムの歴史について理解する。
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身に付ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 フェミニズムの歴史
- 第3回 ジェンダー研究の展開
- 第4回 家族の戦後体制
- 第5回 労働とジェンダー（統計データを読む）
- 第6回 主婦論争とは何か
- 第7回 第1次・第2次・第3次主婦論争
- 第8回 第4次主婦論争
- 第9回 第5次主婦論争
- 第10回 第6次主婦論争
- 第11回 主婦論争の通時的分析、日本におけるジェンダー規範の変容
- 第12回 発表と討論①
- 第13回 発表と討論②
- 第14回 東大祝辞（2019年）を読む
- 第15回 まとめ

5. 成績評価方法：授業への関与度（15%）、レスポンス・カードの提出（15%）、宿題（20%）、発表（20%）、レポート（30%）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

科目名：社会学各論

曜日・講時：水曜 4限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB63407, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2・授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、主に終末期医療に関わる様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。講義で具体的に取り上げるのは、世界各国で過去半世紀の間に急速に拡大してきた安楽死・尊厳死とホスピス・緩和ケアという2種類の「現代人の新たな死に方」である。いずれも法的・倫理的問題が含まれるが、講義はあくまでも社会（科）学な視点から行う。

3. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1)
3. 現代社会における死 (2)
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1)
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2)
6. 「死ぬ権利」の社会学 (3)
7. 終末期ケアの社会学 (1)
8. 終末期ケアの社会学 (2)
9. 終末期ケアの社会学 (3)
10. 死生観の社会学 (1)
11. 死生観の社会学 (2)
12. 死生観の社会学 (3)
13. 死と死にゆくことの現在 (1)
14. 死と死にゆくことの現在 (2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業時の平常点 60%、課題レポート 40%

6. 教科書および参考書：田代志門，2016，『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』世界思想社。

7. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。なお、講義のなかでは小グループでのディスカッションを通じて、教科書や講義の内容理解を深める機会を設けます。ディスカッションには積極的に参加してください。

科目名：社会学各論

曜日・講時：集中講義

Semester：5 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB98819, 科目ナンバリング：LHM-SOC301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：アメリカ社会学説史

2. 授業の目的と概要：この授業では 20 世紀後半から現在に至るまでのアメリカ社会学の展開を、アメリカの政治的、文化的動向も踏まえながら辿っていく。それを通して現代の社会および文化を理解するための学説を提示する。

3. 学習の到達目標：・アメリカ社会学説史の概要を把握すること。
・授業内容について理解したことを自らの言葉で表現できるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 イン트로ダクション——思想史としての社会学説史
- 第2回 タルコット・パーソンズとその時代 (1)
- 第3回 タルコット・パーソンズとその時代 (2)
- 第4回 1960 年代の激動と社会学説 (1) ——アメリカのヘゲモニーと共通価値の動揺
- 第5回 1960 年代の激動と社会学説 (2) ——社会学説への反映
- 第6回 1960 年代の激動と社会学説 (3) ——ラディカル社会学
- 第7回 1970 年代以降の種々の動向 (1) ——脱産業化、グローバル化、ポストモダン
- 第8回 1970 年代以降の種々の動向 (2) ——文化戦争の進展と共通価値の断片化
- 第9回 1970 年代以降の種々の動向 (3) ——リベラリズムの変容と危機？
- 第10回 現代の学説 (1) ——ロバート・N・ベラー
- 第11回 現代の学説 (2) ——クリスティアン・スミス (1)
- 第12回 現代の学説 (3) ——クリスティアン・スミス (2)
- 第13回 現代の学説 (4) ——フィリップ・ゴルスキー
- 第14回 現代の学説 (5) ——ジェイムズ・デヴィソン・ハンター
- 第15回 まとめ

5. 成績評価方法：・出席および授業後のコメントペーパーの内容 (40%)
・レポート (60%)

6. 教科書および参考書：なし (授業中に資料を配布する予定)

7. 授業時間外学習：資料、関連文献の予習／復習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：社会学演習

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB53207, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：病い・自己・時間

2・授業の目的と概要：本演習では、シンボリック相互行為論に依拠した古典的な質的研究の精読を通じて、深刻な病気になるという経験が引き起こす自己の喪失や再構成についてどのような社会学的な記述が可能かを学ぶ。取り上げるのは日本では構成主義版グラウンデッドセオリーアプローチの提唱者として知られる米国の社会学者キャシー・シャーマズの代表的著作『良い日、悪い日——慢性疾患における自己と時間』である（未邦訳）。シャーマズの著作は副題にもあるように、特に時間意識との関係で自己の喪失と再構成を検討したものである。本著作の精読を通じて、慢性疾患の経験に限らずより広く人生における危機や転換点に際して自己がどのように組み替えられていくのかを社会学的に検討することを試みる。

- 3. 学習の到達目標：**(1) シャーマズの著作の内容を正確に理解する
(2) 危機に際した自己のあり方を時間意識との関係で社会学的に検討する方法を学ぶ

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 演習の進め方について
2. 病いの経験と自己の変容に関する社会学
3. 『良い日、悪い日』を読む (1)
4. 『良い日、悪い日』を読む (2)
5. 『良い日、悪い日』を読む (3)
6. 『良い日、悪い日』を読む (4)
7. 『良い日、悪い日』を読む (5)
8. 『良い日、悪い日』を読む (6)
9. 『良い日、悪い日』を読む (7)
10. 『良い日、悪い日』を読む (8)
11. 『良い日、悪い日』を読む (9)
12. 『良い日、悪い日』を読む (10)
13. 危機に際した自己と時間 (1)
14. 危機に際した自己と時間 (2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業内での報告・発言 60%、課題レポート 40%

6. 教科書および参考書：Kathy Charmaz, 1997, Good Days, Bad Days: The Self in Chronic Illness and Time, Rutgers University Press.

7. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学演習

曜日・講時：火曜 5 限

semester：6 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LB62505, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：社会運動研究の理論と実践

2・授業の目的と概要：本演習では、社会運動の研究書／研究論文および資料の講読を通じて、(1)NPO／NGO、ボランティアを含めた社会運動を多角的にとらえるための理論や方法を理解することと、(2) 学術論文を批判的に読む能力を身に着けることを目的とする。

3. 学習の到達目標：(1) 具体的な事例をふまえて社会運動の多様な側面を理解し、さまざまな社会問題と向き合う人びとをとらえる手法を身に着ける。(2) 研究論文を自らの問題関心や社会的・社会的文脈の中に位置づけて読むことができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

NPO／NGO、ボランティアを含む社会運動の基礎知識や理論および分析枠組みについて学んだのちに、NPO／NGO、ボランティア、社会運動に関する学術書や学術論文を講読する。講読するテキストは、受講生が関心のあるテーマに応じて選定する。

- 1 インTRODakション
- 2 社会運動研究の理論、分析枠組み
- 3 社会運動研究の展開プロセス(1)
- 4 社会運動研究の展開プロセス(2)
- 5 社会運動研究の展開プロセス(3)
- 6 社会運動研究の展開プロセス(4)
- 7 社会運動研究の展開プロセス(5)
- 8 社会運動研究を読む(1)
- 9 社会運動研究を読む(2)
- 10 社会運動研究を読む(3)
- 11 社会運動研究を読む(4)
- 12 社会運動研究を読む(5)
- 13 社会運動研究を読む(6)
- 14 社会運動研究を読む(7)
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%

6. 教科書および参考書：濱西栄司・鈴木彩加・中根多恵・青木聡子・小杉亮子, 2020『問いからはじめる社会運動論』有斐閣.

7. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

連絡先： soko.aoki.e7@tohoku.ac.jp

科目名：社会学演習

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LB63506, 科目ナンバリング：LHM-SOC302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：近代の構造転換

2・授業の目的と概要：社会学は、近代社会の自己認識の学問として発展してきた。しかし近代社会は、今日、「後期近代」とも言われており、脱近代として捉えることはできないにしても、しかし、従来の近代社会の延長線上で捉えることもできない。この演習では、近代社会の構造転換について、近年、もっとも説得力のある理論を展開していると評されている A. レクヴィッツの主著を取り上げ、検討する。レクヴィッツの核となる主張は、後期近代では、一般的なものの社会論理が後退する一方、特別なもの (Singularitaeten) の社会論理が台頭し、そのことが、後期近代特有の諸問題を生み出している、というものである。演習では、最初に、レクヴィッツについて簡単な講義を行い、その後、輪読形式で、彼の主著を読み解いていく予定である。

3. 学習の到達目標：近代の構造転換とはいかなるものかを理解できるようになる
社会学の理論的な専門書を読み解く力を習得できるようになる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 講義：レクヴィッツの基本的な考え方について
- 3～14. テキストの読解
15. 総括

5. 成績評価方法：平常点 70%と提出レポート 30%

6. 教科書および参考書：アンドレアス・レクヴィッツ著 (橋本・林・中村訳)、2025 年、『独自性の社会—近代の構造転換』岩波書店

7. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキストを熟読し、授業時間までに、報告レジュメを作成し、論点や疑問点を提示しなければならない。入念な予習と復習が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：社会学実習

曜日・講時：金曜 3 限、金曜 4 限

Semester：5 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB55306, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：社会調査実習

2・授業の目的と概要：社会調査の概要（意義、種類、方法、歴史、課題、技法等）を網羅的に学ぶとともに、後期に予定されている調査実施に向けた準備作業を行う。特にインタビュー調査の技法については模擬インタビューの実施を含め集中的に学ぶ。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 社会調査の方法と論点を理解する。
(2) 社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。
(3) インタビュー調査の技法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 社会調査とは
- 2 研究計画とは
- 3 社会調査の方法 (1)
- 4 社会調査の方法 (2)
- 5 社会調査の方法 (3)
- 6 社会調査の方法 (4)
- 7 社会調査の方法 (5)
- 8 調査倫理
- 9 問題の設定 (1)
- 10 問題の設定 (2)
- 11 既存の調査の検討 (1)
- 12 既存の調査の検討 (2)
- 13 仮説の構成 (1)
- 14 仮説の構成 (2)
- 15 調査対象の選定

5. 成績評価方法：成績評価の方法：授業時の平常点 60%、課題レポート 40%

6. 教科書および参考書：岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』（有斐閣、2016 年）
佐藤郁哉『社会調査の考え方』（上）（下）（東京大学出版会、2015 年）
野村康『社会科学の考え方——認識論、リサーチ・デザイン・手法』（名古屋大学出版会、2017 年）

7. 授業時間外学習：グループ単位でそれぞれが調査の全過程の作業を行うため、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：社会学実習

曜日・講時：金曜 3 限、金曜 4 限

semester：6 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LB65306, 科目ナンバリング：LHM-SOC303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：社会調査実習 II

2・授業の目的と概要：質的データ分析法について理解を深めるとともに、前期で行った予備作業を踏まえて調査を実施し、調査結果の分析を行い、調査報告書を作成する。

3. 学習の到達目標：(1) 質的データの分析法を身につける。
(2) 設定したテーマについて社会調査を実施し、その分析を行えるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 調査の企画
- 2 調査項目の設定 (1)
- 3 調査項目の設定 (2)
- 4 インタビューの実施 (1)
- 5 インタビューの実施 (2)
- 6 質的データ分析法 (1)
- 7 質的データ分析法 (2)
- 8 質的データ分析法 (3)
- 9 調査結果の整理・分析 (1)
- 10 調査結果の整理・分析 (2)
- 11 調査結果の整理・分析 (3)
- 12 調査報告書の作成 (1)
- 13 調査報告書の作成 (2)
- 14 調査報告書の作成 (3)
- 15 調査報告 (口頭発表)

5. 成績評価方法：授業時の平常点 60%、調査報告書の内容 40%

6. 教科書および参考書：グラハム・R・ギブズ (砂川史子他訳)『質的データの分析』(新曜社、2017 年)
ウド・クカーツ (佐藤郁哉訳)『質的テキスト分析法——基本原理・分析技法・ソフトウェア』(新曜社、2018 年)
キャサリン・コーラー・リースマン (大久保功子・宮坂道夫訳)『人間科学のためのナラティブ研究法』(クオリティケア、2014 年)

7. 授業時間外学習：グループ単位でそれぞれが調査の全過程の作業を行うため、グループ内で各段階での課題を検討し、必要な準備を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。